

## 障害者アンケート（鎌倉市障害者福祉計画より抜粋）

### ①障害者が安全・安心に暮らせるまちづくりの推進

- ・災害時対応など全く情報が無い。地域より説明を受けたこともない。
- ・震災時に受け入れる施設の登録ができていますが、実際可能なかどうか？また熊本地震の時は登録施設が機能できなかったが、それを参考に鎌倉市は改善策を講じているのか？
- ・身体、重身の方々の薬の問題
- ・障害福祉と一まとめに言うことは簡単だが、各障害、また障害者個人個人にも違いもある。その違いがあることを市民に理解していただくことも、大事なことに思える。障害を持つ人が、家族の中にも、家族にも安心してもらえる環境作りをしなければ、障害者が安全・安心に暮らせるまちづくりが充実しているとは言えない。家族や障害者が、本音を言える環境作りや支援体制作りが必要だと言える。個別の聞き取りをしっかりとっていくことで、安心・安全なまちづくりもできると考える。

### ②ライフステージに応じた相談支援体制の推進

- ・サービスがあるのはすばらしい事だが、本当に相談したい人に対してわかりやすく、窓口がどこなのか明確になっていることが必要だと思う。
- ・各施設の横の連携が弱いと思います。役所はタテのつながりが強いと一般的にいいですが、それに比べると同じ「障害福祉」というものを扱っている割には、横での相互的なつながりが極めて薄いと感じることが多いからです。既に成人に達している障害者はもちろんですが、未就学児や就学児の親に対して、より当事者の視線や立場に立ったやりとりができるようになることを望みます。
- ・子どもに障害があるとわかって、どこに相談していいのかわからなかった。難しいと思うけど、「自分からどうにかしなきゃ！！」と行動にうつさないとわからないことが多かった。困っていて行動にうつせない人が心配です。

### ③地域で自立して生活するための支援体制の推進

- ・退院して家族にひきとってもらえなければ、自立して暮らすしかないのですから、退院して地域で安心して暮らせるように、グループホームなり、アパートなり、暮らせるところを、もっと用意してほしい。
- ・親子共高齢化になり、息抜きが必要です。

### ④「親なきあと」の支援体制の設備

- ・鎌倉市で障害のある人が生まれてから、親なきあと、本人が死ぬまで生きていけるのか、そういう施設なり、環境ができていて、わかるように暗記した冊子を配布してほしい。
- ・親の死後や自分が年老いた時に市としてのバックアップが無いと、とても不安で症状も安定しないので、一般の仕事で働くのが難しい今、今後なんらかの支援体制が欲しいです。

- ・親が一番（子どもも）心配していることは、子どもが一人になってしまった場合のことであると思う。安心して毎日を暮らせることが一番の願いである、集団生活をするようになるので、人との関わり方、毎日の衣食、生活の仕方等をわかりやすく教えて、優しく接してくださることを願っており、この点を充実させてほしい。その点ハード面・ソフト面において、十分に検討して施設・人的配分の実施を望んでいる。
- ・「成年後見人制度」は一度決定したら悪質でも後見人をやめさせられない等の問題が多発している。そうした欠陥が是正されるまで市は普及PRしないしてほしい。
- ・成年後見制度は充実とはいえない。生活の見守りのみでなく、監督、生活細部（金銭のやりとり、安全、保健）にわたる質と援助。
- ・成年後見制度というけれど、色々と事件が起きていることもあり、信用して頼めるかという事が問題です。個人に頼むのではなく、銀行（信託など）とか施設とか、事業所とかちゃんとチェックして不正がおきないシステムが作れないのでしょうか。

### ⑤働く場の充実と就労支援体制の推進

- ・精神障害者に対して、理解のある職場が増えると良いのではないかと思います。
- ・障害者が働ける場所が、少ないです。
- ・働きたい障害者が専門的な相談や支援を受けられる事業所をもっと充実してほしい。具体的には、就労支援センターの創設が必要。
- ・鎌倉市の障害者で就労している人が相談する機関は横須賀障害者就労援助センターになりますが、アクセスが不便で十分な支援体制がとれてるとは感じません。鎌倉市単独での就労支援センターが必要と思われまます。

### ⑥その他

- ・精神のグループホームの事業数を増加し、地域との生活や親がいなくなった後、安心して暮らせる所を増やせるよう、補助や施設数を増やしてほしい。
- ・日常生活自立支援事業の利用者数が増えるよう、職員体制を整えてほしい。
- ・地域の中で障害者（児）に対する理解が高いとは感じられない。そのために活動の幅が狭くなっている
- ・いろいろな福祉の仕事が、民間の事業所に委たくされるようになってきました。もちろん福祉課だけでは人手不足ということも分かりますが、いざという時、まず相談したいと思っていく場所は、やはり市役所の福祉課だと思うので、個人プラン、個人の相談ごとなど、市が窓口になってもらえると、心強いです。また、福祉関係者のうち、主になるケースワーカーさんや相談員は、10年、20年スパンで福祉課に居てもらえると、とても頼りになり、助かります。